

## K 日本史問題

### 注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は12ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はI・IIとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

#### マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

(3と解答する場合)

I. 次の文1～9を読み、下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ  
(なお、引用した史料は一部表記を改めている)。

1. 景初二年六月、倭の女王、大夫難升米等を遣し郡に詣り、天子に詣りて朝献せんことを求む。(中略) 其の年十二月、詔書して倭の女王に報じて曰く、「(中略) 今汝を以て(イ)と為し、金印紫綬を假し、装封してく あ >の太守に付し假授せしむ(中略)」と。  
(ロ) 編著『魏志』倭人伝

2. 詔して曰く、「また諸の氏の族姓を改めて、(ハ)を作りて、天下の万姓を混す。一に曰く、真人、二に曰く、朝臣(下略)」。

(ニ) 親王等編著『日本書紀』天武天皇13年条<sup>1)</sup>

3. (ホ) 仏の像成りて、始めて開眼す。是の日、東大寺に行幸す。天皇親ら文武百官を率いて設齋大会す。その儀一に元日に同じ。(中略) 仏法東帰より、齋会の儀いまだ嘗てかくの如く盛んなるは有らざるなり。

<イ>等編著『続日本紀』天平勝宝4年条

4. 是の日、中納言近衛大將從三位藤原朝臣内麻呂、殿上に侍す。勅有りて参議右衛士督從四位下<ウ>と参議左大弁正四位下<イ>とをして天下の徳政を相論せしむ。時に<ウ>、議して云く、「方今、天下の苦しむ所は軍事と造作となり。此の兩事を停めば百姓安んぜむ」と。<イ>、異議を確執して肯へて聴かず。帝、<ウ>の議を善しとし、即ち停廢に従ふ。

<ウ>等編著『日本後紀』延暦24年条

5. 今日、女御藤原<エ>を以て皇后に立つるの日なり。(中略) 太閤、下官を招き呼びて云く、「和歌を読まむと欲す。必ず和すべし」者。答へて云く、「何ぞ和し奉らざらむや」。又云ふ、「誇りたる歌になむ有る。但し宿構に非ず」者。「この世をば我が世とぞ思ふ望月のかけたることも無しと思へば」。

藤原<オ>編著『小右記』寛仁2年条

6. 第七十二代、第三十九世、白河院。(中略) 又白河ニ法勝寺ヲ立、九重ノ塔婆ナドモ昔ノ御願ノ寺々ニモコエ、タメシナキホドゾツクリト、ノヘサセ給ケル。(中略) 天下ヲ治

給コト十四年。太子ニユヅリテ尊号アリ。世ノ政ヲハジメテ院中ニテシラセ給。(中略)  
 マシテ此御代ニハ院<sup>4)</sup>ニテ政ヲキカセ給ヘバ、執柄ハタゞ職ニソナハリタルバカリニナリ  
 ス。サレドコレヨリ又フルキスガタハ一変スルニヤ侍<sup>5)</sup>ケン。執柄世ヲオコナハレシカド、  
 宣旨・官符ニテコソ天下ノ事ハ施行セラレシニ、此御時ヨリ院宣・庁御下文ヲオモクセ  
 ラレシニヨリテ在位ノ君又位ニソナハリ給ヘルバカリナリ。世ノ末ニナレルスガタナル  
 ベキニヤ。 『神皇正統記』

7. (治承四年九月三日)(中略) 又伝へ聞く。謀叛の賊< か >の子、年来配所伊豆国  
 に在り。而るに近日凶悪を事とし、去んぬる比新司<sup>6)</sup>の先使<sup>7)</sup>を凌<sup>8)</sup>轢す。凡そ伊豆・駿河兩  
 国押領し了んぬ。(中略) 宛も将門の如しと云々。 < き >編著『玉葉』

8. 日本准三后道義<sup>6)</sup>、書を大明皇帝陛下<sup>7)</sup>に上る。日本国開闢以来、聘問を上邦<sup>8)</sup>に通ぜざる  
 ことなし。道義、幸にも国鈞<sup>9)</sup>を乗り海内に虞なし。特に往古の規法<sup>10)</sup>に遵ひて、(へ)  
 をして祖阿に相副へしめ、好を通じて方物を献ず(中略)

応永八年五月十三日  
 9)

『康富記』

9. < く >元年九月 日、一天下の土民蜂起す。(ト)と号し、酒屋・土倉・寺院  
 等を破却せしめ、雑物等恣<sup>11)</sup>にこれを取り、借錢等悉くこれを破る。管領これを成敗す。  
 凡そ亡国の基、これに過ぐべからず。日本開闢(闢)以来、土民蜂起是れ初めなり。

尋尊編著『(チ)目録』

A. 文中の空所(イ)～(チ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の空所<あ>～<く>にあてはまる適当な語句を、それぞれ対応する次のa～dから  
 1つずつ選び、その記号をマークせよ。

- |     |           |         |         |          |
|-----|-----------|---------|---------|----------|
| <あ> | a. 玄菟     | b. 真番   | c. 帶方   | d. 楽浪    |
| <い> | a. 坂上田村麻呂 | b. 菅野真道 | c. 伴善男  | d. 藤原種継  |
| <う> | a. 小野篁    | b. 菅原道真 | c. 藤原緒嗣 | d. 文室綿麻呂 |
| <え> | a. 明子     | b. 威子   | c. 葉子   | d. 宮子    |
| <お> | a. 兼家     | b. 実資   | c. 道長   | d. 頼通    |
| <か> | a. 為朝     | b. 為義   | c. 義家   | d. 義朝    |

〈き〉 a. 大江匡房      b. 九条兼実      c. 藤原公任      d. 源高明

〈く〉 a. 永仁      b. 応仁      c. 嘉吉      d. 正長

C. 文中の下線部1)～9)にそれぞれ対応する次の問1～9に答えよ。解答はそれぞれに与えられたa～dから1つずつ選び、その記号をマークせよ。

1. この年を含む、7世紀後半から8世紀初頭にかけての文化区分に属する美術作品はどれか。

a.



b.



c.



d.



2. この天皇はどれか。
- a. 孝謙                      b. 光仁                      c. 淳仁                      d. 聖武
3. これらの内容の説明として正しいのはどれか。
- a. 健甕制の創設と荘園の開墾
- b. 朝鮮半島への出兵計画と遣唐使船の造船
- c. 東北地方経営と平安京の造営
- d. 瀬戸内海海賊の掃討と大輪田泊の整備
4. この人物は後に即位した。その天皇はどれか。
- a. 後三条                      b. 崇徳                      c. 鳥羽                      d. 堀河
5. これが指すのはどれか。
- a. 左大臣・右大臣    b. 征夷大將軍
- c. 摂政・関白    d. 太政大臣
6. これが指す人物はどれか。
- a. 足利尊氏                      b. 足利義教                      c. 足利義満                      d. 足利義持
7. これを建国したのはどれか。
- a. 安祿山                      b. 朱元璋                      c. 尚巴志                      d. 李舜臣
8. これは日本から中国への遣使を意味している。それに関する正しい記述はどれか。
- a. 阿倍仲麻呂は唐に仕官して高官にのぼったが、唐で客死した
- b. 南宋に遣使した倭王武は、使持節都督倭・高句麗・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国諸軍事安東大將軍倭国王を自称した
- c. 804年の遣唐使に従って入唐した空海と円仁は、帰国後にそれぞれ新しい宗派をひらいた
- d. 倭は隋に小野妹子を遣わして高向玄理らを同行させ、隋に臣属した
9. このとき朝鮮半島を支配していたのはどれか。
- a. 元                              b. 高麗                              c. 新羅                              d. 朝鮮

Ⅱ. 次の文1～4を読み、下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

1. ロシアがカムチャツカ半島に勢力をのぼし始めた17世紀末以降、日本とロシアの関係が記録に残るようになった。江戸幕府のロシアに対する姿勢が変化するのは田沼時代になってからである。田沼意次は（イ）の著した『赤蝦夷風説考』に啓発され、蝦夷地に調査隊を派遣して、ロシア貿易と蝦夷地開発を計画した。ところが田沼の失脚後、幕政を担った松平定信は、田沼の試みを否定し、幕府の北方政策は定まらなかった。

カムチャツカに流刑になっていたハンガリー人が1771年に脱走して、ロシアの南下を警告した（ロ）事件や、1789年のクナシリ・（ハ）のアイヌの蜂起は、幕府が北方での危機に目を向けるきっかけとなった。北方の危機は、1792年にロシア使節ラクスマンが漂流民の伊勢の船頭（ニ）らをともなって、根室に来航したことで、現実のものとなった。通商を求めるラクスマンに対して、幕府は祖法によりロシアと新たに関係を持たないと回答したが、紛争がおきるのを恐れ、長崎入港許可証を与えて帰国させた。

北方での対外的な緊張が強まるなかで、松平定信は、<sup>1)</sup>蝦夷地対策の1つとして、青森<sup>2)</sup>に松前藩を監督する新たな職の設置を計画した。その後、幕府の北方政策も本格化していき、幕府は近藤重蔵や最上徳内、間宮林蔵らに北方探査を命じ、蝦夷地や千島列島、樺太の調査を進めさせた<sup>3)</sup>。1804年にラクスマンが持ち帰った入港許可証をたずさえて、ロシア使節レザノフが長崎に来港した。幕府がレザノフの要求を拒絶すると、ロシア軍艦による樺太・択捉などを攻撃する事件が起こり、紛争状態となった。この紛争については、1811年のゴローウニン事件<sup>4)</sup>の解決を契機として和解が成立した。

2. 幕末に至って西欧諸国による日本への開国圧力が強まるなか<sup>5)</sup>、ロシア使節（ホ）が日本に来航し、日露和親条約が締結された。この条約において、日露国境は千島列島の<あ>以南を日本領、<い>以北をロシア領とし、樺太は雑居地として国境を定めないことにした。明治政府は、1869年に蝦夷地を北海道に改称し、その後、黒田清隆の建議でロシアに対する防備を兼ねて開拓にあたる（へ）制度を設けた。1875年にはロシアと樺太・千島交換条約を結び、樺太を放棄する代償に千島全島を日本領とした。

日清戦争で勝利した日本は、清国との間で下関条約<sup>6)</sup>を結んだが、調印直後、ロシアはフランスやドイツとともに、日本が獲得した一部領土の清国への返還を勧告した。日本は最終的にこの勧告を受け入れたが、南下方針を強めるロシアと日本との間で緊張が高まっていった。桂太郎内閣は、日英同盟の締結に成功し、続いて日露協定の交渉を進めたが、締結に至らず、失敗に終わった。ついに1904年2月に日露戦争が始まり、日本軍

は中国・朝鮮の国境をこえて満州に進撃した。日本軍は1905年3月には奉天を占領して、同年5月には日本海でロシアの（ ト ）艦隊を破り、戦況が日本優位のなか、米国の斡旋により講和条約が締結された。

講和条約の締結後、互いの勢力範囲が落ち着いた日露関係は次第に好転し、1907年以降、日本とロシアは4次にわたり日露協約を結び、両国の権益などを相互承認・確認した。しかし、第一次世界大戦中にロシア革命がおこり、列強諸国が革命への干渉に動くなか、日本も東部シベリアに派兵した。<sup>8)</sup>

3. 社会主義国・ソ連に対して、日本は強い警戒感をもって臨んだ。満州事変、日中戦争などにより極東情勢が混沌とするなかで、欧州においても第二次世界大戦が始まった。<sup>9)</sup>この間に日本とソ連との間では、1938年にソ連と朝鮮・満州の国境付近で（ チ ）事件、翌年には満州・モンゴル国境付近でノモンハン事件が発生したが、いずれの武力衝突も機械化されたソ連軍に圧倒された。その結果、軍部では対ソ戦（北進論）が見直され、戦略物資を求めて東南アジアに進出する南進論が強まり、日本は北守南進策を進めるため、日ソ中立条約を締結した。しかし、1941年6月にヒトラーが独ソ戦争を開始すると、軍部では再び北進論が盛んとなり、陸軍は（ リ ）と称して、約70万人の兵力を満州に集結させるなど、日本の方針は二転三転した。

最終的に日本は南進論を選択し、日米関係も悪化の一途をたどり、1941年12月にアジア太平洋戦争が始まった。当初は優勢であった日本軍も次第に劣勢となり、日本の敗色が濃くなるなか、ソ連は日ソ中立条約を無視して、1945年8月8日に対日参戦し、満州へ侵攻した。ソ連参戦により、現地の日本軍は壊滅し、取り残された民間人に多くの犠牲者が出た。

4. 戦後、米ソ間の対立が顕在化していくが、占領下の日本は対米協調路線を重視し、西側陣営の一員として独立を果たした。<sup>11)</sup>ソ連はサンフランシスコでの対日講和会議に出席したものの、調印しなかった。ソ連との国交正常化は、1956年の日ソ共同宣言によって実現し、同年に日本の国際連合加盟も承認され、日本は国際社会に復帰した。

米ソ冷戦下の国際情勢の下で、1950年代後半～70年代前半の日本は米国の同盟国として、<sup>12)</sup>高度経済成長を実現した。1970年代に米ソ間では緊張緩和（デタント）が続いたが、1979年のソ連によるアフガニスタン侵攻で、米国は対ソ強硬外交に転じた。1985年にソ連共産党書記長に就任したゴルバチョフは、ペレストロイカ政策を進め、また冷戦構造からの脱却を目指した。この間に東欧での民主化が進み、1991年、ついにソ連は消滅し、

旧ソ連を構成する各共和国は一部を除いて、ロシア共和国を中心とした緩やかな連合である（ヌ）を結成した。日本もまた、バブル経済やその後の平成不況、55年体制の崩壊など、1980～90年代に経済・政治で大きな変化を経験した。北方領土問題という大きな問題が横た<sup>13)</sup>わるなか、日本とロシアは、新たな二国間関係の構築を模索している。

A. 文中の空所(イ)～(ヌ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の空所<あ>・<い>それぞれにあてはまる語句の組み合わせとして正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

- |            |         |            |         |
|------------|---------|------------|---------|
| a. <あ>: 択捉 | <い>: 得撫 | b. <あ>: 国後 | <い>: 得撫 |
| c. <あ>: 択捉 | <い>: 占守 | d. <あ>: 国後 | <い>: 占守 |

C. 文中の下線部 \_\_\_ 1)～13) にそれぞれ対応する次の問 1～13 に答えよ。

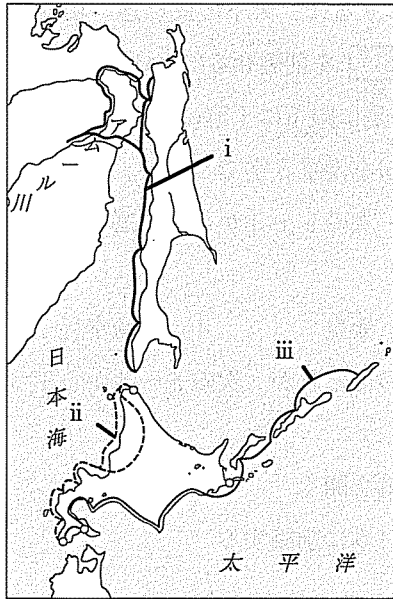
1. この許可証を漢字 2 字でしるせ。

2. この職はどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

- |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| a. 蝦夷管領 | b. 箱館奉行 | c. 北国郡代 | d. 松前奉行 |
|---------|---------|---------|---------|



3. 次の地図の探索ルートと人物の組み合わせとして正しいものはどれか。下記の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。



- |    |          |           |            |
|----|----------|-----------|------------|
| a. | i : 近藤重蔵 | ii : 間宮林蔵 | iii : 最上徳内 |
| b. | i : 間宮林蔵 | ii : 近藤重蔵 | iii : 最上徳内 |
| c. | i : 近藤重蔵 | ii : 最上徳内 | iii : 間宮林蔵 |
| d. | i : 間宮林蔵 | ii : 最上徳内 | iii : 近藤重蔵 |

4. この事件に関して述べた次の文 i・ii と、それに該当する地名①～④との組み合わせとして正しいものはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

- i. この島に上陸したグローウニンは、幕府の役人によってとらえられた
- ii. この島の出身の高田屋嘉兵衛は、ロシアに抑留された後に日本に帰国し、グローウニンの解放に尽力した

- |      |       |        |      |       |        |
|------|-------|--------|------|-------|--------|
| ① 択捉 | ② 国後  | ③ 淡路   | ④ 佐渡 |       |        |
| a.   | i : ① | ii : ③ | b.   | i : ① | ii : ④ |
| c.   | i : ② | ii : ③ | d.   | i : ② | ii : ④ |

5. これに関する次の1844年のオランダ国王の親書を読み、下記の問 i・ii に答えよ。

なお、引用した史料は一部表記を改めている。

… (前略) … 謹<sup>つつし</sup>んで古今の時勢を通考するに、天下の民ハ速<sup>すみやか</sup>ニ相親しむものにして、其勢ハ人力のよく防<sup>まも</sup>ぐ所に非<sup>あら</sup>ず。 ⑤ を創製せるにより、以来各国相距ること遠くて猶<sup>なほ</sup>近きに異ならず。… (中略) … 是<sup>こゝ</sup>に殿下に丁寧<sup>ていねい</sup>に忠告する所なり。

i. 文中の空欄⑤にあてはまる適当な語句を漢字3字でしるせ。

ii. 文中の下線部 殿下 が指すのはどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。

a. 将軍                  b. 大老                  c. 天皇                  d. 長崎奉行

6. これに関する記述として、正しくないのはどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。

- a. 清国は沙市、重慶、蘇州、杭州の4港を開く
- b. 清国は山東半島、台湾、澎湖諸島を日本に割譲する
- c. 清国は朝鮮の完全な独立を承認する
- d. 清国は2億両の賠償金を日本に支払う

7. これに関する次の文 i・ii について、その正誤の組み合わせとして正しいのはどれか。下記の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。

- i. ロシアは、樺太全域を日本に割譲する
- ii. ロシアは、日本の韓国併合を承認する

a. i : 正      ii : 正                          b. i : 正      ii : 誤  
c. i : 誤      ii : 正                          d. i : 誤      ii : 誤

8. これに関する記述として、正しいのはどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。

- a. これは、アメリカからの共同派兵案を受けて行われた
- b. これは、シベリアのルーマニア軍救援を名目としていた
- c. これを行った日本は、ヴェルサイユ条約調印前に撤兵を完了した
- d. これを決定した内閣は、第2次大隈重信内閣である

9. これに関する記述として、正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 汪兆銘を首班とする親日的な新政府を重慶に樹立させた
  - b. 五・一五事件後に成立した岡田啓介内閣が日満議定書を結んだ
  - c. 日中戦争に批判的な演説を行った斎藤隆夫は、衆議院を除名された
  - d. 日中戦争勃発後、英国駐華大使による和平工作が行われた
10. これに関する記述として、正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 日独伊三国同盟締結後、米国は直ちに対日石油輸出を停止した
  - b. 日米交渉は、駐米大使の松岡洋右と米国国務長官との間で行われた
  - c. 日本軍の南部仏印進駐後、米国は直ちに屑鉄、鉄鋼の対日輸出を禁止した
  - d. 日本は、中国からの全面撤退を求めるハル＝ノートを最後通牒とみなした
11. これに関して述べた次の文 i～iii について、古いものから年代順に正しく配列したものを、下記の a～f から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- i. GHQ は共産党幹部の公職追放を指令した
  - ii. 日米安全保障条約に基づき、日米行政協定が締結された
  - iii. 日米相互防衛援助協定 (MSA 協定) を結んだ
- a. i－ii－iii
  - b. i－iii－ii
  - c. ii－i－iii
  - d. ii－iii－i
  - e. iii－i－ii
  - f. iii－ii－i
12. これに関する記述として、正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. ヴェトナムへの米国の本格的な軍事介入 (北爆) 以後、反対運動が広がった
  - b. 重要産業統制法が制定され、カルテルの結成が進んだ
  - c. 文化財を保護するため、文化財保護法が制定された
  - d. 労働運動が高揚し、全日本産業別労働組合会議 (産別会議) が結成された
13. これに関する記述として、正しくないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 宇野宗佑内閣のもとでおこなわれた参議院選挙で、与野党が逆転した
  - b. 竹下登内閣の時代に、リクルートコスモス社にかかわる贈収賄事件がおこった
  - c. 日本新党の細川護熙を首班として、自由民主党中心の連立政権が組織された
  - d. 宮沢喜一内閣は、PKO 協力を成立させた

【以下余白】